

なきごえ

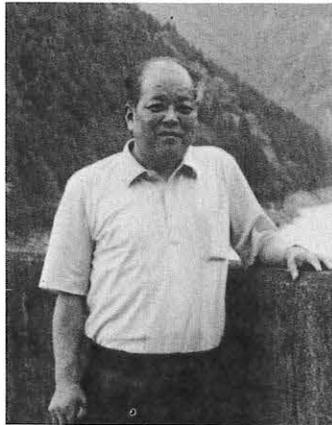


1983

11

大阪市
天王寺動物園協会

小林 肇 男



私と動物とのふれあいは、生れたときからといえるようです。小学校長を退職して、祖母が始めた牛乳屋さんを引継いだ私の父は、4～5頭の乳牛のほか豚、山羊、ウサギ、ニワトリなど大正・昭和時代の漁師町には珍しい存在でありました。私は物心のついた頃には、草刈り、餌のつくり方など教えられ、小学生の頃には毎朝、中学時代には夏休みなどの帰省のとき、牛乳配達をやらされていました。

小さな牧場ではあったが、朝早くから夕方遅くまで年中休む日もない動物（家畜）との毎日でした。

乳牛を病気で倒しては損をし、買わされたメスが妊娠していなかったりの赤字経営が続いたことを記憶しています。そんな頃、私を獣医師の道に進ませたのでしょうか、生来、年中無休の生活をみてきた私は、終戦とともに百八拾度の世相の変化に、何故か、公衆衛生の道を歩むこととなりました。

公衆衛生ひとすじに30年。突然動物園長を命ぜられた私は、ただ運命のいたずらに苦笑するばかりでした。

さて、動物園に勤務した私にとっては、何もかも未知の世界のようでした。動物といっても野生動物

が主な動物園です。書物の知識では、わからないことばかり（勿論、学生時代にも勉強はしていなかったが）、毎日が飼育係の諸君に教えて貰うことから始まりました。

毎朝、園内を一巡することを日課としていましたが、そのうち動物たちにもわかってきたのか、私の顔をみるとあいさつ？をするようになってきました。「好物のエサもくれないアイツは何者やるか？」といているようです。

このような日・月を経て少しづつ動物のことがわかってきたようです。しかし、「どうも様子がおかしい、昨日から何も食べない」と聞かされてから三日後に死んだトラ。その日の朝まで元気に餌を食べていたラクダが死んだと夜中に電話で報告を受けたときなど、まだまだわからないことや、しなければならないことが数多くあることを教えられてきました。

わが動物園も、開園以来32年を数えます。永らく市民に愛されてきた動物園も、施設の老朽が目立つばかりでなく、特別史蹟である国宝姫路城の周辺整備事業が進められています。また市の東北部に姫路サファリーが来春オープンしようとしています。

人口45万の地方都市に、市立の動物園と水族館があることを誇りとしてきましたが、いまや大きい転機を迎えようとしています。これを機会に、市長や入園者の皆さんから「近いうちに、もう一度こよね」といつて帰られるような「動物園づくり」に有終の努力をしたいと考えている今日、此頃の私であります。

(姫路市立動物園長)

なきごえ11月号もくじ

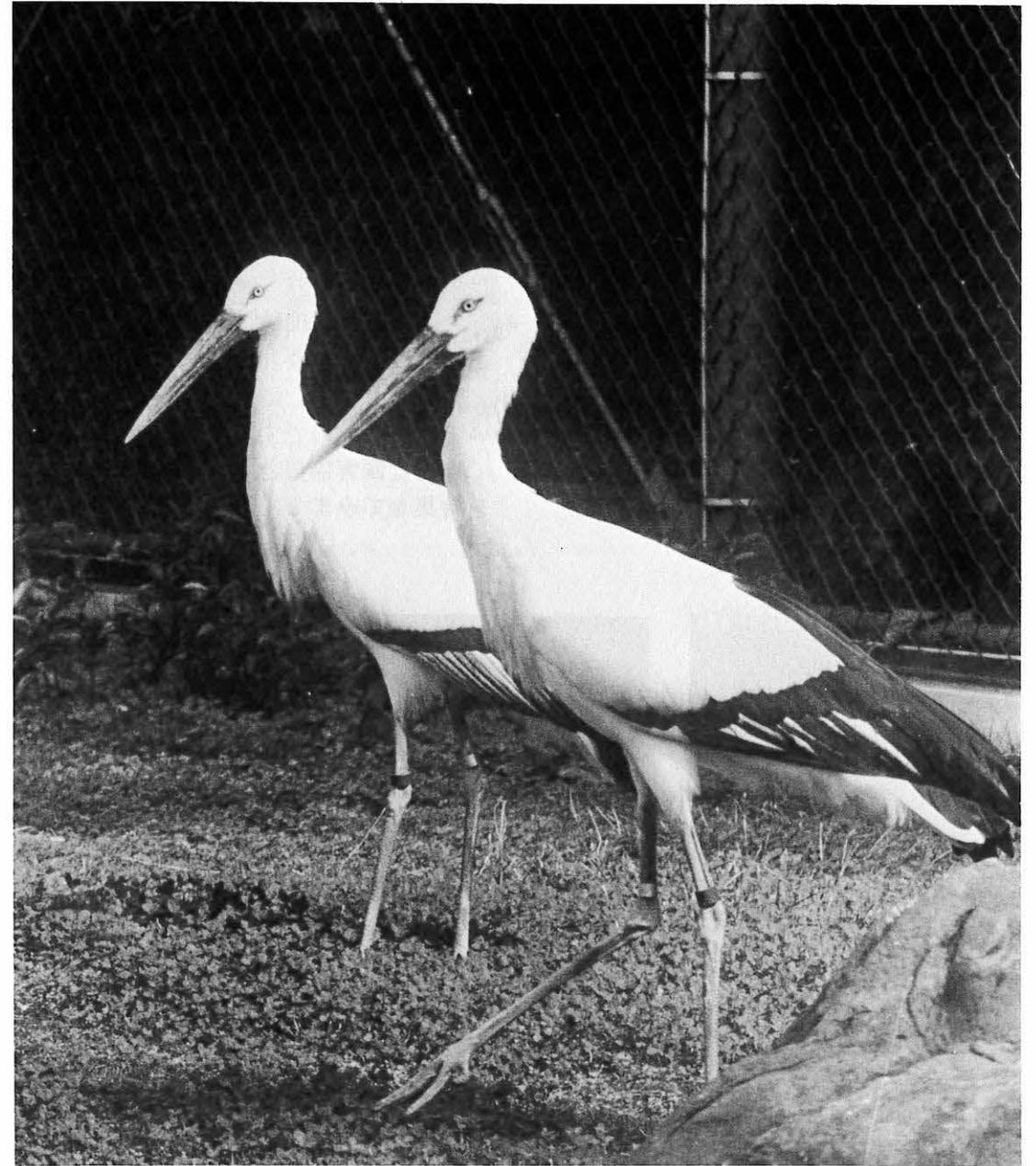
動物と私	2
“上海からニーハオ”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
アメリカの動物園をたずねて ③	6・7
爬虫類館に飼育される動物たち	8・9・10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“ニホンジカ”

りっぱな角を持つニホンジカの雄、秋の繁殖期には闘争の武器となりますが、春になるとこれも落角します。

(撮影：柴田 総)



上海から“ニーハオ”

10月12日、上海市との第5次動物交換で、一番のつがいコウノトリが来園しました。日本では、絶滅寸前のコウノトリですので、数年のうちにはぜひかわいいヒナを見たいものです。

(撮影：神原 安昭)

動物園グラフ



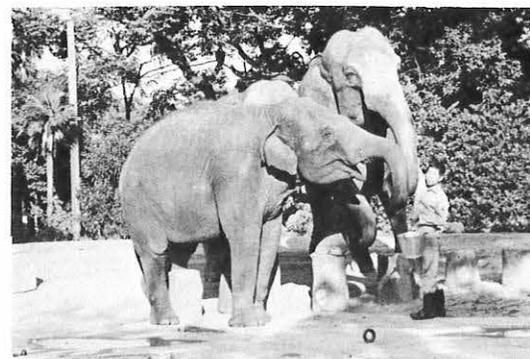
クロサイと野口係員

やっと一児の母になったクロサイのサッチャンも野口さんと一緒に時はまだまだ甘えん坊です。

“なかよし”
飼育係員にとって担当動物となかよくすることはとても大事なことです。なかよくしていると病気に早く気付いたり、動物が飼育下という人工的な環境に順応し易くなったり、様々な利点があります。と言っても、決してペット的な飼い方ではないのですが……。

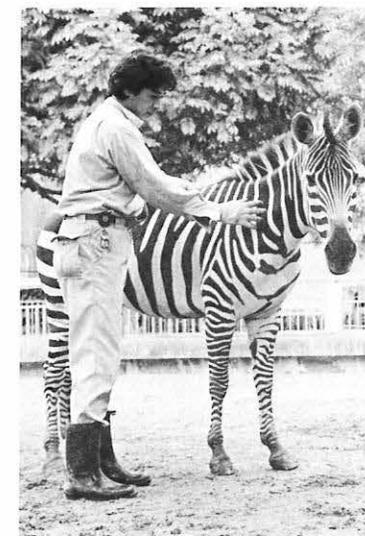
今月は飼育係員となかよし動物を特集してみました。

(撮影：長瀬 健二郎)



アジアゾウと東主任

東主任からごちそうをもらって、みんな満足そうです。



グラントシマウマのキャンディーと村田係員

村田さんになでてもらっているキャンディー。文字通りのスキンシップです。



トラと松下係員

人工哺育で育ったトラは松下さんを仲間と思っているようです。



ブラックバックと青野係員

うしろのお客さん達のうらやましそうな表情が印象的です。



ニホンシカのリカと小谷係員

小谷さんになでられていかにもうれしげなリカの表情を見てやって下さい。



ムジサイチョウのファンファンと西川係員

ファンファンは西川さんの腕にとまるのが大好きです。



フライカワセミと早川係員

朝の合唱は2人?の日課となっています。

9・10月の動物園日記

- 9 / 21. オランウータン“サツキ”の妊娠鑑定を行ないました。
- 9 / 22. カバの雄“フトシ”の左の大腿部が大きいはれ始めたので、雌と離し治療を行なうことにしました。
- 9 / 23. 動物総合感謝祭が催され動物を代表して、クロオオカミとトラの子が参列しました。
- 9 / 24. 東淀川区内でニホンザル逃亡中とのことで捕獲依頼をうけ、現場に出動しました。
- 9 / 25. キングペンギンのヒナを親でない別の個体が抱いています。

- 9 / 26. 新キジ舎建設のためのプロジェクト会議を開きました。
- 9 / 27. アカハシリュウキュウガモが11卵抱卵していましたが4卵ふ化しはじめました。水禽放養舎ではうまく育つ見込みがないため、すべてふ卵器へ移し人工ふ化にかえました。キーウィの体重測定を行ないました。
- 9 / 29. ブラックバックの雄が角傷で死亡しました。
- 10 / 1. ボイラーの火入式がありました。動物を代表してムツアシガメとケニアスナボアが出席しました。
- リスザルの展示を始めました。
- 10 / 2. ボランティアが、例会と秋の動物園まつ

- りのための準備を行ないました。
- 10 / 3. 自然哺育で育ったクロオオカミの子ひとつがいを、繁殖を目的として熊本動物園に貸出しました。
- 10 / 5. 熊本動物園よりやってきたシベリアオオカミひとつがいの展示を開始しました。ハリモグラの贈呈式が行なわれました。
- 10 / 7. コウカンチョウが新たに8羽入園しました。
- 10 / 8. 前月末に保護したキジバトを、骨折していた足が治ったので放鳥しました。
- 10 / 9. ラマの雌の発情を認めました。
- 10 / 10. カバの“ナツコ”が子供を1頭生まれました。秋の動物園まつりが本日から始まりまし

- 10 / 11. クサガメが7頭、アカミミガメが20頭ふ化しました。
- 10 / 13. フランソワルトンとコウノトリが中国・上海動物園より当園に贈呈されました。上海動物園と技術交流会を行ないました。
- 10 / 15. 国際園長会議に出席のため土井園長がオーストラリアに出張しました。
- 10 / 16. フランソワルトンの採食は良好です。
- 10 / 17. 本年生まれのカリフォルニアアシカの子の体重が減ってきているため一時隔離し検便を行なうことにしました。
- 10 / 18. 佐野養護学校の触察がありました。

アメリカの動物園をたずねて ③

★シカゴ・ブルックフィールド

5月25日、シカゴにあるもう一つの動物園、ブルックフィールド動物園に向かいました。リンカーンパーク動物園のフィッシャー園長からお教わった通りに、市の中心部にあるユニオン駅から汽車に乗り、約40分程で動物園に到着、門で園長のリード氏に面会を求めましたが、あいにく不在の事なので、園内を1人で見学する事にしました。1934年にリンカーンパーク動物園の分園として開園されたこの動物園は、動物の行動を見せるために、新しい試みを取り入れられている事で有名です。今回は残念ながら



正門から見た園内風景

工事中で、見る事はできなかったネコ舎では、電気仕掛けのネズミを使って、オオヤマネコの狩の行動を見せているという事です。最近完成したトロピック・ワールドという動物舎は、飛行機の格納庫のような巨大な建物で、中に入ると一瞬、ジャングルの中にタイムスリップした気になります。擬岩や擬木、それに熱帯植物でジャングルを再現しており、そこで動物たちを飼育しています。アジア地区には、枝から枝へと移動するテナガザル、マングローブの茂みを楽しそうに走り回るコツメカワウソの群などが



トロピックワールドの内部

見られ、アフリカ地区では、マントヒヒや、コロブスの群、そしてゴリラの家族が、野生に近い生活ぶりを見せてくれます。ゴリラ一家の仲睦まじい姿を

写真に撮っていると、突然稲妻が走り、雷鳴がなり響き、そして雨が降り始めたのです。驚いて上を見上げると、高い天井の所にスプリンクラーが取り付けられていて、又、擬岩の上の部分には、青色の電球が点滅しているのです。これで人工の雷雨を演出していたのです。

さすがと言うべきか、ここまでしなくても、判断に戸惑いつつ出口に向かいました。水生鳥類館の中に、キーウイが展示されているという事なので、中に入ってみると、片隅にキーウイのコーナーがあったのですが、入園者の関心も



大変ひょうきんなゴリラの子供

今一つという風で、中に入っていく人もあまりありませんでした。真暗な室内に入り、闇に目が馴れてくると、1羽のキーウイが歩き回っていました。これだけ活発に動き回っているのに人気がないとは、思わず「めげずに頑張れよ！」と声をかけたくりました。園内を一周して少し物足りなさを感じたのは、昨日見学した、リンカーンパーク動物園が素晴らしい動物園だったからかもしれませんが、年間入場者数が、リンカーンパーク動物園の400万人に対して、郊外とはいえ、同じシカゴにあるこの動物園は、145万人と少ないのも理解できるようです。

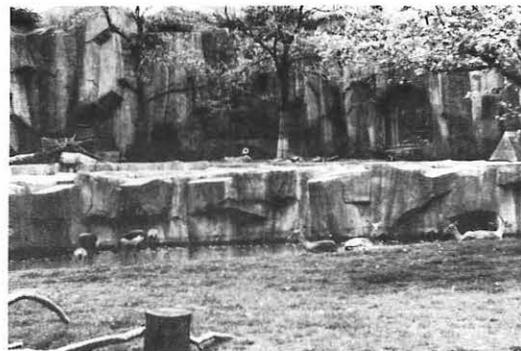
★ミルウォーキー

26日、今回の旅で最後の目的地であるミルウォーキーに向かいました。シカゴ市からグレイハウンドバスで北へ約4時間、車中から眺める景色はアメリカの広さを見せてくれます。シカゴでは、タンポポの花が綿ぼうしになっていたのに、バスが北に向かうにしたがって、タンポポが咲き競い、ミルウォーキーでは、まだつぼみのタンポポが、数多く見られ季節が逆行しているような錯覚を覚えました。ミルウォーキー動物園の近くにあるホテルにチェックインした後、ミルウォーキー動物園の飼育課長川田健氏を訪ねました。川田さんの事は、読者の方もよくご存知だと思いますが、私も初めてお会いするにもかかわらず、川田さんが書かれた論文や、動物関係の雑誌などを読んで感動を受けたためか、初めてお会いするような気になりませんでした。現在ナマケ



林に囲まれた静かな園内

モノについての論文をまとめていらっしゃるようで、お忙しい中にもかかわらず、車で広い園内を一周して下さいました。この動物園の広さは約63haもあるとの事で、林に囲まれた落ち着いた感じのする動物園です。園内を一周した後、川田さんの愛車フォルクスワーゲンで、ホテルまで乗せていただき、夕食までごちそうになり、アメリカの動物園事情や、動物談話など、貴重なお話を伺いました。次の日の朝、ホテルまで向かえに来て下さった川田さんの車で動物園へ。動物園の車に乗り換えて園内に向かう途中、飼育係の人が、アカオノスリを動物病院へ連れていくところだったので、いっしょに車で病院に行く事



すばらしいパノラマ展示の動物舎

になりました。動物病院で新人の獣医さんを紹介していただき、病院の中を見学させていただきました。川田さんの話では、アメリカでは獣医師は神様より尊敬されているので、動物園で獣医を雇うのに相当のお金が必要だそうです。日本ではとても考えられない事です。この動物園の特色の一つであるパノラマ展示式の動物舎では、管理エリアを見学しました。アフリカ地区、アジア地区、南米地区のすべての地区がパノラマ展示法を取り入れてあり、アフリカ地区では、インパラやハーテビーストなどの草食動物とカンムリヅルなどの鳥を飼育しており、空堀を隔ててチーターが歩き回っているという具合で、アジア地区は、フタコブラクダとシベリアトラ、南米地



夜行性動物も飼育されている小動物舎

区は、カビバラ、ラマとジャガーといった組合せになっています。そしてパノラマ展示法の欠点ともいえるべき、肉食動物を近くで見られないという点も、壁に設けられている窓からガラス越しに見えるよう配慮されています。屋内の展示室も広いスペースがあり、草食動物用の寝室も観客通路の地下に設けられていて、この方式の動物舎としては最高のもではないかと思えます。小動物舎には、マヌルネコが6頭も飼育されていて、うらやましい限りです。昼食を動物園の近くのレストランで、又々ごちそうになり、その後、ゴリラ舎や鳥類館などを見学し、川田さんの車で空港までおっくわいただき、心残りなが



毎年繁殖しているマヌルネコ

ら帰国の途につきました。

★おわりに

今回アメリカの東部の動物園を訪ねて、心に残る事が多くありました。4年前に訪ねた西海岸の動物園と異なり、古い歴史を持つ動物園が多く、それぞれの動物園が、長い歴史の中で築かれた動物園色の違いがとても印象的でした。今回は、飼育係の人達の仕事ぶりを見せてもらったり、話を聞かせてもらう機会に恵まれ、大変参考になる事も多く、又、動物に対する考えも、我々と同じである事に感激しました。

(飼育課：農本 武志)

爬虫類館に飼育される動物たち

『爬虫類』というと、たいがいの人は顔をしかめ、何となく気味の悪い動物だと思ふ事でしょう。そして、それらの人々のほとんどがヘビを連想し、背筋が寒くなったり、極端な人になると「はき気がする。」ときえ言う人がいます。そして、それらの人々の多くは正常な神経の持ち主であり、むしろ、ヘビやトカゲなどの爬虫類を好んでペットにするの方が異常な神経の持ち主だとさえ言い切る人達があります。

元来、日本という国は爬虫類、特にヘビなどを冷たい目で見、かつ忌み嫌う傾向があるように思われます。しかしながら、ヘビなどは地域によっては“神の使者”、“聖なる動物”として非常にあがめられている場合もあるのです。

このようにある地域では“聖なる動物”としてあがめられ、ある地域では“悪魔の使い”として冷たい目で見られている、善玉になったり、悪玉になったりと、何とも忙しいこの気の毒な変温動物ヘビを中心に、爬虫類館に飼育されている動物達にスポットをあててみましょう。

1. 爬虫類館について

総面積 170 m² の円形平屋建て動物舎で、大蛇室(3室)、ワニ室(3室)、ゾウガメ室(1室)、小蛇室(20室)、ケース展示室に分かれており、昭和45年1月にオープンしました。冬期用暖房は蒸気暖房で、園のボイラー係が交替でその暖房調整を行なっています。従来この暖房は10月1日に火入れされ、翌年の5月迄入れられます。

ところで、初めて爬虫類館に入った人は、おそらくその異様な雰囲気にとまどうはずです。何故なら、彼等は音をたてませんし、又、吠える事もしません。時々気まぐれ者のヨウスコウワニが吠えたり、彼等の餌となる、ニワトリやヒヨコの淋しげな鳴き声が聞こえる程度の『沈黙の世界』だからです。

2. 爬虫類館の飼育動物

爬虫類の代表であるヘビを中心に、トカゲ、ワニ、カメなどの動物が飼育されており、その詳細については〈表1〉に示す通りです。

〈表 1〉

ヘビ	() 内は収容数	ワニ	トカゲ	カメ
アミメニシキヘビ	(1)	ミシシッピー・ワニ(1)		
インドニシキヘビ	(3)	ヨウスコウ・ワニ (1)		
シマヘビ	(3)	メガネカイマン (3)		
コロンビアレインボーボア	(4)	マレーガビアル (1)		
カリフォルニアキングヘビ	(1)			
フロリダキングヘビ	(1)			
アオダイショウ	(1)		ザラクビトカゲ (1)	
マングローブヘビ	(1)		アオジタトカゲ (1)	
ボールニシキヘビ	(2)			
ハイイロクリボ	(1)			
キイロアナコンダ	(1)			
キイロネズミヘビ	(1)			
ラッセルスナボア	(1)			
ケニアスナボア	(1)			
シュウダ	(1)			
アカオレーサー	(1)			
ミズヘビ	(5)			



爬虫類館正面入口

にマウスが主体になっています。ヒヨコは段階別に飼育しており、だいたい3段階に分けて与えます。これは業者等から入ってきたヒヨコを飼い込み、大きくしたもので、すなわち小蛇類にはヒヨコを、ク

〈表 2〉

各動物の餌

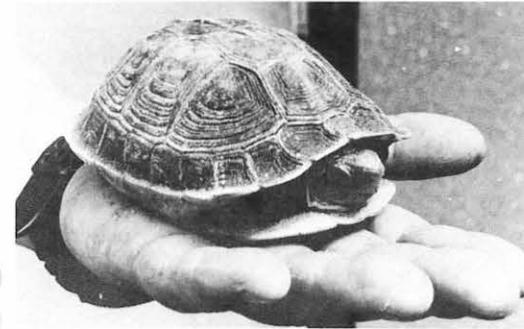
大ヘビ	→ アミメニシキヘビ、 インドニシキヘビ……ニワトリ
中ヘビ	→ クリボ、 シュウダ……中スウ、ヒヨコ
小ヘビ	→ アオダイショウ、 キングヘビ……マウス、ヒヨコ
大ワニ	→ ミシシッピーワニ、 マレーガビアル……馬肉、コイ(時々)
小ワニ	→ メガネカイマン……馬肉 (仔) ドジョウ(時々)
陸ガメ	→ ゾウガメ、 ムツアシガメ……青草、レタス、キャベツ、トマト、人参 カンショ、パン、時々馬肉を与える。
水生ガメ	スッポン……コイの身 ワニガメ……コイのアラ マタマタ……コイ
肉食トカゲ	→ ザラクビトカゲ……馬肉、ヒヨコ、マウス
雑食トカゲ	→ アオジタトカゲ……馬肉、マウス、人参、レタス、キャベツ、トマト、パン

3. 餌について

(イ) ヘビの餌について

ヘビのエサについては、ヒヨコとニワトリ、それ

リボなどの中型蛇には、ヒヨコをやや大きくしたもの、そして大蛇類の若い個体、例えばアミメニシキヘビの若い個体などには、かなり大きくなったものを与えるようにしています。餌を与えるのは、基本的には2週間に1回の割合で与える事になっています



セマルハコガメ

が、ヘビの様子を見ながら与える事にしています。これは、個体によってはかなりクセがある為で、例えばフロリダキングヘビなどは、一回捕食すると20日間ぐらいは餌を食べようとしないからです。こんな時に餌を与えると、餌のヒヨコが収容室内の水入れで水死する等のロスが多く、かえって始末が悪いのです。ちなみにヘビに与える餌を大別して〈表2〉に示してあります。

(ロ) ワニの餌について

ワニの類には、現在では馬肉を与えていますが、以前にはニワトリ、ウサギ等も与えていたようです。しかし、あまり生き餌を与えるとそのクセがつき、馬



ケニアスナボア

肉等を食べなくなる事があるので、その辺の兼ね合いが非常に難しく、現在では時々生きた鯉を与えたりしてバリエーションをつけています。

(ハ) カメの餌について

カメには陸ガメと水生ガメとがあり、陸ガメ(ゾウガメ等)については、野菜や果物を中心にし、これに動物質のものを若干与えています。又、水生ガメのスッポン等には鯉の身を小さく切ったものを与えていますが、マタマタのように魚を水ごと吸い込んで、餌を吸い込んでから水だけ口からはき出して魚を食べるような特異なカメには、仮死状態にした鯉を口の前にもって行ってやり、吸い込み易いようにして

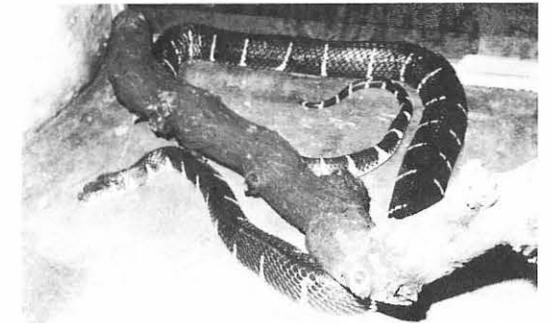
与えます。

(ニ) トカゲの餌について

トカゲの類は、ザラクビトカゲとアオジタトカゲの2種類だけしか飼育しておりません。ザラクビトカゲは肉食であり、マウスやヒヨコそれに馬肉などをメニューをかえながら与えています。一方アオジタトカゲは主に肉食ですが、菜食でもあるので馬肉などと一緒にレタスやキャベツ等をきざんだものを与えています。

4. 脱皮について

ヘビ類は1~2ヶ月の割合で脱皮をします。これは成長していく上において大変重要な事なのです。正常な個体では、まず脱皮する数日前から表皮の色がくすんできます。それと同時に目にごって生気を失ってきます。次いで食欲がなくなり水に体を浸し、木枝に体をこすりつけて表皮をひっかけ脱皮



マングローブヘビ

していくのですが、飼育下の状況では、大型蛇より小型蛇の方がスムーズに脱皮していると思われ、大型蛇、特に6m以上はあるアミメニシキヘビなどは完全に脱皮しきる迄、数日間を要します。又、よく入園者の方から「同じ爬虫類でも、ヘビは脱皮するがトカゲは脱皮しないのか？」という質問をされる事がありますが、トカゲも脱皮することはするのですが、一枚皮にむけないので目立たないだけなのです。トカゲの体をよく見ると、皮膚の部分がかさかさになってめくれあがっていることがよくありますが、この状態が脱皮なのです。同じようにカメの甲らも大きくなる過程においてめくれてきます。その証拠にカメの池を清掃していると甲らのめくれた部分がたくさん池の底に沈んでいます。

参考までに6月1日以降のヘビの脱皮についてアトランダムに周期記録を数例、〈表3〉に示しておきます。

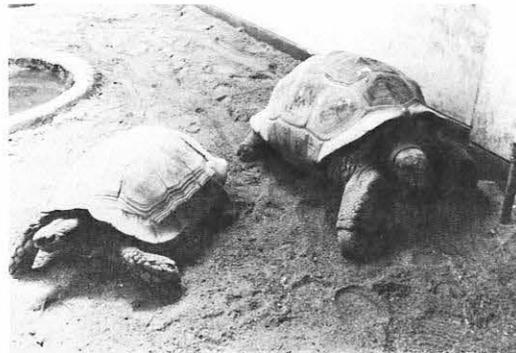
〈表 3〉

ヘビの脱皮周期

①マングローブヘビ	7/20	8/23	10/3
②シュウダ	8/3	9/1	9/26
③アミメニシキヘビ(大)	7/5	8/14	9/16

5. ヘビの捕食について

ヘビの類は御承知のように手も足も持ち合わせていません。そして、彼等は目も見えないし耳も聞こえないのです。そんな彼等が獲物となるべき動物を、どうして捕えられる事が出来るのでしょうか？その正体は、彼等の温度受容器が非常に敏感に出来ているからなのです。彼等には、熱を感じ取る対になった器官が目の下、もしくは下唇の部分にあり、この器官がある為に、周囲の物と温度差のある物体、すなわち獲物の存在を知る事が出来るのです。



ゾウガメとムツアシガメ

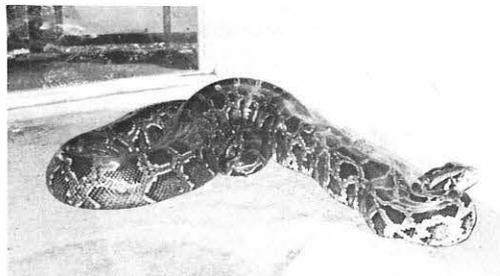
ところで、ヘビが舌をチョロチョロ出して動き回っているのを見て、気味悪がる人達がありますが、これとて彼等には大変重要な事なのです。彼等は舌の先によって臭いをかぐのですが、この舌の出し具合でその時の彼等の御機嫌がわかるのです。すなわち、舌の動きが速い場合はかなり興奮しているか、あるいは非常に警戒しているかのどちらか、と判断



ザラクビトカゲ

その他体調不良の場合は正常に働いていないように思われます。

ここにインドニシキヘビが、ニワトリを捕食する経過の記録がありますので〈表4〉に記しておきます。

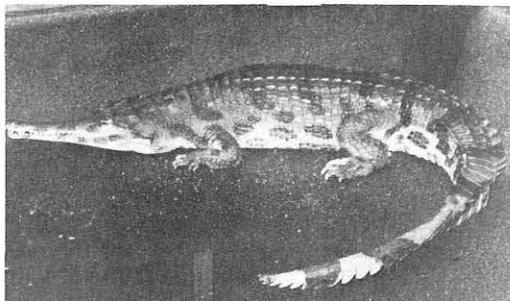


インドニシキヘビ

〈表 4〉

インドニシキヘビの捕食記録
(体長：2m10cm 獲物：中スウ)

- PM2:12 標的にとびつく(その距離約25cm)と同時にしめあげる
- 2:16 獲物絶命
- 2:18 獲物より口をはずすが、体は獲物に巻きつけたまま、その後徐々に体をゆるめてゆく
- 2:20 獲物より巻きつけていた体を完全にははずす
- 2:21 獲物全体を舌で確認しながら頭部より口にのみ込む
- 2:23 頭部完全にのみ込む(この間ひろがっていたニワトリの羽根を、体をよじりながら器用に折りたたみのみやすいようにする。)
- 2:31 獲物全体を完全にのみ込む



マレーガビアル

6. 最後に

爬虫類を担当してはや5ヶ月、非常に難しい動物であり、なかなか把握出来ない部分も多く、特にこれからは冬に向かうわけですが、冬期の飼育の困難な事は、歴代の爬虫類担当者が各人指摘するところです。担当した当初は私自身、畑違いの感がありかなりまごつきましたが“住めば都”現在では、どっぷりと爬虫類のアカがしみつき、今後楽しく飼育していきたいと思えます。

(飼育課：葭谷文彦)

(写真：森本委利)

動物園ニュース

§ ハリモグラ来園!!

オーストラリアのメルボルン市ビクトリア製造業会議所と大阪商工会議所の姉妹会議所の縁組を記念して、2頭のハリモグラがビクトリア製造業会議所から贈られました。10月5日に両会議所の会頭らが出席され贈呈式が行なわれました。両都市の名前にちなんで、オスが“TOMA”、メスが“MOTOKO”と命名されました。



ハリモグラは単孔目に属し、哺乳類でありながら、卵を産むことで有名です。体長約40cm、体重約6kgで、全身は針状の毛におおわれ、口は細長く、野生ではシロアリやアリを食べていますが、動物園ではミルク、馬肉ミンチ、卵黄などを混ぜた餌を与えています。

§ コウノトリ、フランソワルトン来園!!

10月13日、中国・上海市動物園から来園したコウノトリとフランソワルトンそれぞれ一番の贈呈式が北園コウノトリ舎で行なわれました。



上海動物園との動物交換は今回が5度目で、当園からは来春、ダチョウとラマを一番ずつ贈ることになっています。今回は、王焜团长以下4名の方々が来園され、贈呈式のあと全国各地の動物園などを見学され、10月21日に帰国されました。

コウノトリは日本では特別天然記念物に指定されており、絶滅が心配されている鳥で、全国の動物園でも3園で7羽飼育されているだけです。

フランソワルトンは、中国南部からラオス・ベトナムに生息する黒色で、尾が長く、頭頂部の直立った冠毛と頬から耳にかけての白い毛が特徴的なサルです。その生態はあまり知られていませんが、主食は木の葉であるいわゆるリーフモンキーの仲間、樹上生活をしているサルです。日本では4園で12頭飼育されているだけです。

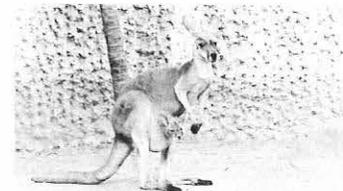
§ カンガルーやカバなどの赤ちゃん誕生

9月末からアカカンガルーの赤ちゃんが袋から顔を出すようになりました。母親は当園生まれで3産目です。大きなおなかの袋から顔を出しているかわいいう赤ちゃんは、人気ものになっています。また、一昨年人工哺育で育ったアカカンガルーの“ポケット”

現在の飼育動物数

(1983年9月30日現在)

哺乳類	8目	98種	346点
鳥類	20目	202種	706点
爬虫類	3目	40種	89点
計	31目	340種	1,141点



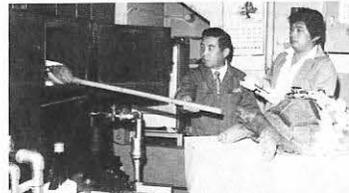
の袋にも早くも赤ちゃんがいることが確認されました。日増しに袋内での行動が活発になって

いますので赤ちゃんが袋から顔を出すのもまもなくのことでしょう。

一方、カバの赤ちゃんが、10月10日生まれました。オスの赤ちゃんで、母親の“ナツコ”はこれが4産目でしょう。子供を育てています。寒さに向かう季節のため、室内プールに収容したままで、お目見えは来春の予定です。しばらく御覧いただくことはできませんが、御了承下さい。

また、10月11日には、は虫類舎でクサガメ7頭とアカミミガメ20頭がふ化しました。

§ 暖房用ボイラーの火入式



10月1日から、寒さに弱いは虫類の暖房が開始されました。動物を代表して、ムツアシガメとラッセルスナボアが出席し、暖房用ボイラーに点火されました。来年の春まで類人猿やカバなどの暖房のため約146,000ℓの重油が使用される予定です。

§ シベリアオオカミ来園!!

10月5日、熊本動物園からシベリアオオカミが2頭来園しました。これは、10月3日に当園からクロオオカミを貸し出した、代りに送られてきたものです。

2頭は、昨年4月16日に熊本動物園で生まれ、人工哺育で育ったとのこと。

§ 園内植物だより

動物園では、動物だけでなく園内の緑化にも力を入れていますが、10月初めにカモシカ園の南の花壇に1200株の赤と黄色のアキランサスで「天王寺Zoo」という文字を植え込みました。

また10月中旬からはチューリップの植え込みが始まりました。来春には美しい花を咲かせることでしょう。

また10月中旬からはチューリップの植え込みが始まりました。来春には美しい花を咲かせることでしょう。

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。来年1月までの休園日は下記のとおりです。

11月21日(月)、12月19日(月)、1月17日(月)。

年末年始は、12月29日～1月1日まで休園いたします。開園時間は、午前9分30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

すてき満喫

近鉄クレジットカード



- 全国の近鉄百貨店グループ・都ホテチェーンなどでワイドにお使いいただけます。
- カードをご提示いただくだけで30万円までのお買物をお楽しみいただけます。
- 繰り延べ払い(リボルビング方式)・一回払い・ボーナス一括払いの3つのお支払い方法がございます。
- 入会資格は20歳以上で2年以上お勤めまたは自営の方です。

近鉄百貨店

お申込み・お問合せは各店クレジットセンター
アベノ店・上本町店・東大阪店・奈良店・西京路店・東京店

近鉄百貨店グループ

四日市近鉄・京都近鉄・岐阜近鉄・枚方近鉄・和歌山近鉄・近鉄松下(徳山)・別府近鉄・三交百貨店(松阪・伊勢)・近鉄東海ストア

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

●オールカラー

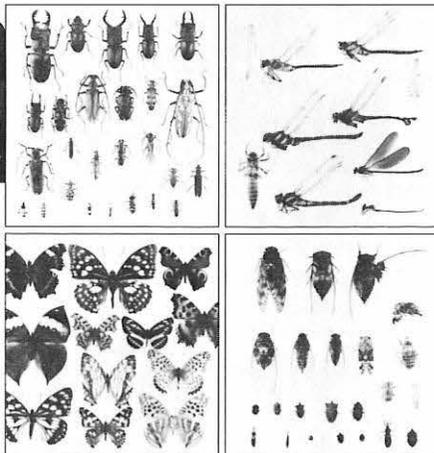
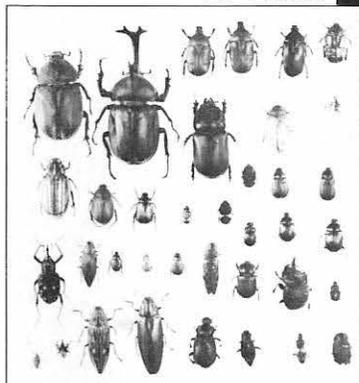
むし

くらしとかいかた

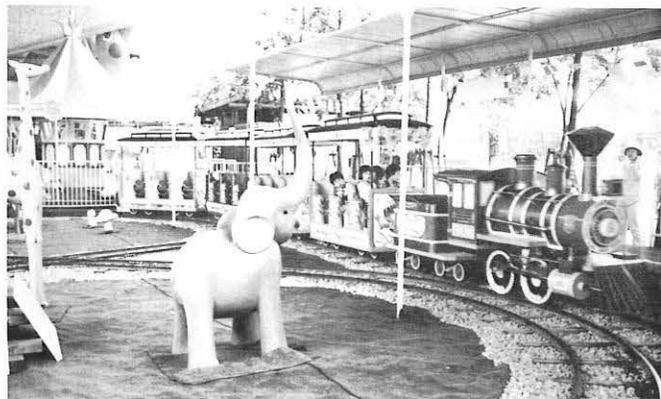
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きくとすばらしいことに出会えるはずだ。

B5変形 84ページ 580円

ひかりのくに株式会社
〒542-8571 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購読をお奨めします。

年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ

TEL 06-771-0201



フィルムポン!

世界で初めて「ドロップイン機構」を搭載!
フィルム装てんが新しくなった—フジカ
オートエース&オートメイト新登場!。

—FUJICA—
オートエース
DL-100 DATE
標準価格49,800円

かたらの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

◎ 動物のことなら あらゆることにお役に立ちます。

- 飼育指導 (ペットよろず相談)
- ふれあい子供動物園
- ふれあい動物写真会
- 撮影用動物モデルリース
- 動物(ペット)、教材用生物販売、リース、交換、引取り、預り
- 各種飼料、器具販売、配達

自然から学ぶおもいやり

株式
会社

アニマ

(いきもの110ばん)

☎ 06-863-1025 (代表)

〒561 豊中市利倉2丁目22-2

全国の愛犬家の共感を呼ぶ
無比の愛犬歌集

歌集 犬の歌

動物文学会主宰
平岩米吉著
(天金美装・箱入
B6判・270頁
2500円・〒不要
直接申込ごう)

著者が、約40年の間に、共に暮らした70余頭の犬の生と死を歌った419首を取録。同時に、その誕生より老齢に至る写真47図を取め、犬の一生の生態写真集でもある。

動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2
電話(03)717-1659・振替東京5-9800

日本図書館協会選定
全国学校図書館選定

狼

その生態と歴史
犬科生態研究所長
平岩米吉著

A5判・320頁・
口絵挿絵等140図
定価2800円・〒300円

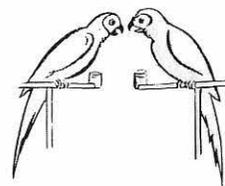
待望の日本狼の正史ついに完成!

☆犬科動物の研究者として、当代随一の著者が、数十年にわたり収集した正確な資料を、生態学の目をもって描いた空前の書。
☆日本狼は、大口の真神とあがめられた古代より、のちには病狼と恐れられ、やがて絶滅に至るまでの経緯を詳述。

主な目次

序 狼への幻想と現実	5 狼の伝説
1 犬科の分類と解説	6 日本狼の特徴
2 犬と狼の関係	7 日本狼の絶滅
3 日本狼の歴史	終 狼を飼った人々
4 狼狩の記録	

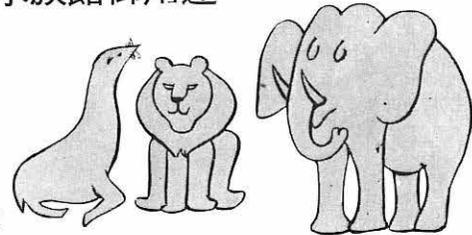
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地
振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

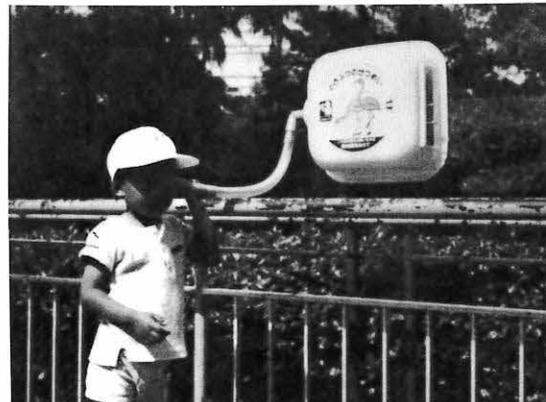
- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494

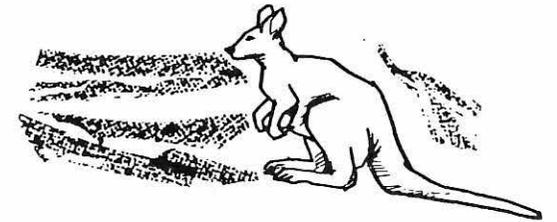
たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

1回 20円

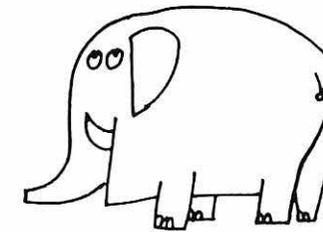
……………ぼっちゃん
……おじょうちゃん
どうぶつえんへ……………
いらっしゃいませ……………
ごきゅうけいは……………
おしょくじは……………



動物園内北園 中央売店

☎(06)771-0973

天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話(06)771-7110番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機しておりますのでご説明に伺いました際は、よろしくお願致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円
撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグルト

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

なきごえ 昭和58年11月15日発行(毎月1回15日発行)

第19巻 第11号 (通巻219号)

編集 / 大阪市天王寺動物園

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

電話 大阪 (06) 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

振替口座 大阪 37823

1年継続(12部) 1,100円(送料共)

編集委員 (土井 良彦・伊東 重朗・小出 雅三・樽本 勲・中川 哲男・前田 豊彦
宮下 実・長瀬健二郎・榊原 安昭・森本 委利・大野 尊信・葭谷 文彦
農本 武志・野口 秀高・仲谷 登・柴田 総・兼坂 雅浩・堀 弘)